

News Release

Contact: マーケティング & コミュニケーション部
成松恭多
Tel: 03-5411-3790
E-mail: Tokyo-RIJ@russell.com

ラッセル・インベストメント株式会社
東京都港区赤坂 7-3-37 プラース・カナダ
www.russell.com

発信日: 2011年12月21日

ラッセル、2012年グローバル・アウトルックを発表 —債務の減少を背景に緩やかな成長と回復の局面に—

(2011年12月21日、東京=ラッセル) ラッセル・インベストメント(本社:米国ワシントン州シアトル市、以下ラッセル)のグローバル・インベストメント・ストラテジスト・グループは「2012年グローバル・アウトルック」というレポートを発表しました。「先進国で30年かけて積み上がってきた過剰負債の整理には数年かかるだろう」と表現し、2012年を通じて世界的に債務の削減が進むという見解を示しました。一方、アジアと米国にけん引され、全体としては、投資家は緩やかな成長と回復を期待できるという見通しを明らかにしました。

ラッセルのグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーであるピート・ガニングは、「2011年の世界市場は、われわれの予想した通りの様相を呈した。2012年は、特に西欧諸国において、財政支出の削減ニーズと、経済成長支援と増加しつつある社会福祉関係の支出を両立させる綱引きが継続し、引き続き高ボラティリティ状況が続くと思われる。ただ、世界的に見出しを賑わせた政策問題に関しては、提案された解決策がどのような影響を及ぼしてくるのか、より明らかになってくるだろう」という見解を示しています。

日本を除くアジアについて、ラッセルは、2011年に域内で直面したインフレと景気の過熱化が課題でしたが、2012年は外部ショックへの対応が課題となると考えています。特にラッセルは欧州経済の低迷に伴う輸出の減速を2012年の大きな懸念要素としています。アジア太平洋地域のチーフ・インベストメント・ストラテジスト、アンドリュー・ピースは、「欧州の信用不安の影響を避けられないものの、アジアには前向きな材料もある。インフレは天井を打ち、地域全体を通して市場のバリュエーションには魅力がある。特に中国は、金融緩和の余地が大きい」と述べています。

一方日本に関しては、日本株は割安であり、良好なリターンが期待できるものの、経済が持続的な成長を遂げる見込みは小さいという過去数年来の見通しを踏襲しています。ただし、日本株は歴史的にさらに割安になっており、また2011年3月の震災の復興需要が成長を後押しし、2012年、主要国の中で唯一トレンドを上回る経済成長を達成することができると予測しています。一方、高止まりしている円が日本経済にとっての懸念材料であると指摘しています。

2012年グローバル・アウトルック・レポートの中で、ラッセルは2012年の市場と資産の収益に最も影響を与えらると思われるテーマとして、以下の4点をあげています。

1. 2012年の経済、金融、政治を背景に世界的な債務削減の動き

バランスシート型の景気後退に続いて、典型的に現われる長期的、精彩を欠くトレンド以下の回復を迎える。生活水準の低下、高い失業率、低収益、高ボラティリティを予想。

2. 2012年、改善の兆しがみられる市場の主たるリスクはユーロ

欧州銀行システムの脆弱性から、潜在的な欧州の政策上のミスおよび実行力の欠如が、システムック・リスクとグローバルなマーケットのセンチメントを左右する唯一かつ最大の懸念材料。

3. ルート記号型の米国経済回復の継続

米国では2009年からのラッセルの米国経済見通しのキーワードであるルート記号型回復が2012年も継続。ゆるやかな米国の景気回復、米国企業の利益の向上、民間投資の拡大が継続。

4. 中国・アジアが緩やかな成長をけん引

中国当局は金融緩和に着手しており、中国のソフトランディングを予想。他の新興諸国の金融緩和とともに、中国、新興国は米国とともに、再び世界のGDPの成長エンジンとして貢献。

市場のボラティリティは引き続き高く、企業業績の回復は緩慢にとどまるものの、ラッセルのインベストメント・ストラテジスト・グループは収益の回復が、緩やかながらも株式市場のプラス成長をもたらすと考えています。市場の主要指標については以下の数値予測を発表しています。

- 米国10年国債のターゲット: 2.5 - 2.75%
- Russell 1000®インデックス・ターゲット: 720
- S&P 500インデックス・ターゲット: 1,300

Russell 1000®, S&P 500 両インデックスは、2011年11月末の米国市場の水準から10%上昇すると予測しています。

現段階での2012年リスク評価

ラッセルは2012年の中心シナリオは、中国、米国の両経済が世界経済の起点となり、成長を促進するものというものです。このシナリオでは、欧州の深刻化しつつあるソブリン危機は安定し、特にリスク資産に良好な状況をもたらすと考えられています。

「米国と中国に関するデータ予測については自信をもっているものの、政治の動向についての予測については非常に困難が伴うことはわれわれは理解している。欧州は引き続きシステムック・リスクの源泉であり続けるだろう」とピーズは述べています。

継続する欧州危機によるグローバル信用市場の収縮、ウェイトの削減、成長と流動性への懸念、リスク回避志向の継続が、少なくとも一時的に、新興諸国資産の成長の足かせになっています。しかし、ラッセルではファンダメンタルの強さから、新興国市場はリスク回避志向の影響を受けると考えています。

アウトルックが投資家にとって示唆すること

ラッセルは、投資家は、従来以上にあらゆる分野への目配りが重要であり、1ベーシスを獲得するためにより多くの労力を要するようになり、地域的分散を着実に実践することが必要と述べています。

「2012年に利益を得るためには従来以上にアクティブ、グローバル、マルチストラテジー的アプローチが必要であり、あらゆるセクター、地域で良好な業績を上げている運用会社を見つけることがこれまで以上に重要になる。オルタナティブを通して非伝統的資産に投資することは、潜在リターンを高める重要なストラテジーであろう。高ボラティリティ・低リターン環境で成功するには、投資機会を的確に捉え、ダイナミックなアプローチをとることが重要だと思う」とガニングは述べています。

本リリースは、2011年12月15日に米国シアトルで発表された「Russell Investments 2012 Global Outlook: Global deleveraging as backdrop for modest growth and recovery」を補足・編集したものです。「2012 Global Outlook」（英語版）をご覧になりたい方は、マーケティング&コミュニケーション部までご連絡下さい。

ラッセル・インベストメントについて

ラッセル・インベストメントは、現在世界35カ国以上^{*1}において、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様を対象に総合的な資産運用ソリューションを提供しています。グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理、株式インデックスの開発など幅広く業務を行っており、現在当グループが提供するファンドの運用資産総額は約11兆円^{*2}となっています。グループの創立は1936年。米国ワシントン州シアトルを本拠地とし、米国の大手生命保険相互会社であるノースウェスタン・ミューチュアル・ライフ・インシュアランス・カンパニーの子会社です。

日本においては1986年に東京オフィスを開設。現在、ラッセル・インベストメント株式会社を通じて各種サービスを提供しています。詳しくは<http://www.russell.com/jpii>をご覧ください。

(※1 2010年12月末現在、※2 2011年9月末現在、グループ合算)

Copyright ©2011. Russell Investments. All rights reserved. ラッセル・インベストメントは世界中の拠点を通じて事業を展開しています。「ラッセル・インベストメントグループ」、「ラッセル・インベストメント」および「ラッセル」は、フランク・ラッセル・カンパニーおよびその子会社等の総称です。当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。当資料は、一般的な情報の提供を目的としており、特定の運用商品の推奨等の投資勧誘を目的としたものではありません。当社による事前の書面による許可がない限り、資料の全部または一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮下さい。

###